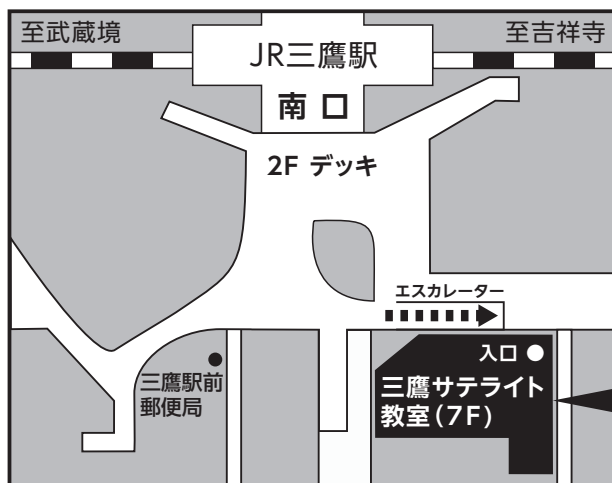


## 芭蕉の『奥の細道』を通して読んでみよう その5

受講料 (振込額)	7,500円				
必携テキスト	—————				
講座概要	曜日	水曜日		日程 4月10日 5月15日 6月19日	
	時間	10:00～11:30			
	回数	全3回	定員		40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講師	本学非常勤講師 永田 英理 (ながた えり)				
	武蔵野大学・白百合女子大学非常勤講師。早稲田大学大学院博士後期課程修了。博士(学術)。専門は俳文学で、松尾芭蕉の俳諧や俳論を研究している。 著書は『蕉風俳論の付合文芸史的研究』(ペリかん社、2007年)、共著に佐藤勝明・永田英理・玉城司『元禄名家句集略注 椎本才麿篇』(新典社、2021年)など。				
内容	『奥の細道』は、現代においても人気の高い芭蕉の紀行文です。元禄2年(1689)に深川を出発し、日光・奥州・出羽・北陸路を行き、岐阜の大垣で結ばれた芭蕉の5ヶ月の旅は、その数年後に、何度も何度も推敲が重ねられて『奥の細道』という作品になりました。歌枕(昔の和歌で詠まれた名所)や旧跡を巡り、西行や義経ら歴史上の人物たちと魂を通わせながら辿る芭蕉の旅路は、時空を超えた旅でもあるといっってよいでしょう。じつは『奥の細道』には、全編を通して読んでゆくことによって初めて見えてくる面白さもあるのです。最新の研究成果をふまえながら、芭蕉の旅と一緒に味わってみませんか。これまでの内容についても簡単に振り返りながら進めますので、途中からの受講も大歓迎です。今回はいよいよ陸奥へと入り、白河の関、須賀川、浅香山・信夫の里を読みます。				
	[持ち物] 筆記用具。テキストはコピーして配布しますので、本の購入の必要はありません。 もしも『奥の細道』を購入したいという方には、頼原退蔵・尾形伏詠注『新版 おくのほそ道』(角川ソフィア文庫・836円)がおすすめです。				
	①4月10日：前回までの振り返り・白河の関 ②5月15日：須賀川 ③6月19日：浅香山・信夫の里				



# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013  
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F  
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。